

1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5820m付近の正渦度極大域に対応した前線が東北地方から日本のはるか東へのびている。東北地方では、前線近傍で強い雨を解析。日本の東の前線上の低気圧が東進。
- ② オホーツク海の高気圧が南南西へ移動。東シナ海の高気圧がほとんど停滞。
- ③ 非常に強い勢力の台風第13号が南鳥島近海を西北西進。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の前線は、2日夜にかけて北～東日本を南下し、日本の東へ進む。

日本の東の前線上の低気圧は、3日夜にかけて日本のはるか東へ進み、不明瞭化する。前線は日本の東を東進し、次第に本州から遠ざかる。1項②のオホーツク海の高気圧は3日夜にかけて千島近海へ移動する。1項②の東シナ海の高気圧は3日夜にかけて、黄海へ移動する。この高気圧が本州へ張り出すため、3日にかけて東～西日本の広い範囲で晴れて、猛暑日や酷暑日となる所がある。熱中症による人の健康に係る被害が生ずるおそれがある。低気圧や前線に向かう下層暖湿気、千島近海へ移動する高気圧の縁辺を回る湿った空気、台風第13号の周辺から回り込む下層暖湿気の影響で大気の状態が不安定となり、雷を伴う非常に激しい雨の降る所がある。東北地方では2日は、土砂災害に厳重に警戒。北～東日本では2日は、西日本では3日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。北～東日本と南西諸島では3日にかけて、西日本では3日は、落雷、突風、降ひょう、短時間強雨に注意。1項③の台風は、3日夜にかけて小笠原近海へ進む。台風の影響で非常に強い風が吹き、大しけとなる所や、台風を波源とするうねりの影響で、しける所がある。小笠原諸島では3日は、高波に警戒し、北～西日本太平洋側では3日は、うねりを伴う高波に注意。

② 4日は、2項①の台風第13号が非常に強い勢力を維持し、小笠原近海を西北西進する。2項①の黄海の高気圧は北へ移動し、千島近海の高気圧は北東へ移動する。千島の東の高気圧と台風の間で気圧の傾きが急となり強い風や非常に強い風が吹く所がある。台風を波源とするうねりの影響で、しける所、大しけとなる所、猛烈なしけとなる所がある。小笠原諸島では4日は、高波に厳重に警戒し、暴風に警戒。伊豆諸島では4日は、高波に警戒。東日本太平洋側では4日は、強風に注意し、東～西日本太平洋側では4日は、高波に注意・警戒。台風周辺から流れ込む下層暖湿気の影響で大気の状態が不安定となる所がある。西日本では4日は、落雷、突風、急な強い雨に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(06時からの24時間)：関東甲信100mm。② 波浪(明日まで)：小笠原諸島8、関東・伊豆諸島4、東北・東海・近畿3m。

5. 全般気象解説情報発表の有無 発表の予定はない。



主要じょう乱解説図